

ピックアップ

復興応援隊の活動紹介

東日本大震災からの地域コミュニティ再構築に向けた住民主体の地域活動を支援するため、復興応援隊が活動しています。現在は3地区で、人材育成や地域コミュニティの構築支援など、復興に伴う地域協力活動に取り組んでいます。

中央地区

公益社団法人

3.11メモリアルネットワーク

未来に向けて震災を伝える祈念公園や震災遺構で、教育旅行や視察の受付窓口となり、「語り部」や伝承交流施設「MEET門脇」での展示などにより、全国からの訪問者に「命を守る力」を発信できるよう、市民主体の震災伝承活動を支えています。

また、市内の小中学校での復興・防災マップ制作支援などを通じて、自分たちの命を守るための意識を啓発するとともに、防災のモデル都市となれるようサポートを継続しています。



▲ARアプリを活用した案内の様子(左)、震災当時の避難行動を小学生に紹介

雄勝地区

一般社団法人

硯上の里おがつ

隊員が住民の輪に入りながら、コーラスや各種サークル活動などを行っているほか、公民館と連携し、季節のイベントなどを企画し、開催しています。

また、コミュニケーションの話題づくりや参加の機会となるよう、地域の人や活動取材紹介する情報誌を定期的に発行するなど、地域コミュニティの活性化を目指し、支援に取り組んでいます。



▲道の駅硯上の里おがつ花植えの様子(左)、文化祭ステージ発表の様子

北上地区

一般社団法人

ウィーアーン北上

被災自治体の共通課題でもある「被災元地」の特に活用が見出し難い沿岸部の集落跡地問題に対し、住民とともに環境再生を行う「平地の杜づくりプロジェクト」を軸に活動しています。令和5年2月には取り組みが評価され、グリーンインフラ大賞国土交通大臣賞を受賞しました。その他、地域イベント開催支援や情報発信、地域自治組織の後方支援を行いながら、北上地区の活性化に向けた取り組みを行っています。



▲平地の杜づくり施工会の様子および参加者集合写真
 図 地域振興課(内線4245)

令和5年度 いしのまき圏域SDGsシンポジウムin東松島

エスディージーズ

Sustainable (サスティナブル:持続可能な)
 Development (ディベロップメント:開発)
 Goals (ゴールズ:目標)

SDGs(持続可能な開発目標)は、地球上に住む全ての人が暮らしやすい社会を将来に引き継いでいくための世界共通の17の目標です。

石巻圏域定住自立圏共生ビジョンに基づく取り組みの一つとして、石巻市・東松島市・女川町が連携し、「海洋ゴミ・海洋プラスチック問題」をテーマとした「いしのまき圏域SDGsシンポジウム」を令和5年10月30日に東松島市コミュニティセンターにて開催しました。

図 SDGs移住定住推進課(内線4224)

～環境大臣 祝辞～



▲環境大臣 伊藤 信太郎氏

世界的に大きな問題となっている海洋プラスチック汚染について、実際に野蒜海岸での清掃活動を通して、美しい海岸を維持することの大切さと海洋プラスチックごみの対策に努めていく必要性を実感したことや、私たちがこの問題を知り、実際に行動していくことが解決につながっていくとメッセージがありました。

～基調講演～



▲環境省水・大気環境局長 土居 健太郎氏

環境省水・大気環境局長土居健太郎氏より「海洋プラスチックごみ問題の現状と取り組みについて」と題し、講演がありました。プラスチックの普及、消費、海洋へ流出し汚染までの経緯や、日本を含む主要国の現状のほか、リサイクルなどによるプラスチック製品の削減対策、生分解性プラスチック製品の開発などの取り組みについて、具体例を挙げながら話がありました。

海洋プラスチックから制作したエコバックを配布



近年、海洋汚染の問題は深刻化し、近い将来には海洋プラスチックが魚の量を上回る事が予想されています。海洋問題への関心を高めるため、海洋プラスチックをリサイクルした繊維「REPREEVE®Our Ocean」から、制作したエコバックを来場者に配布しました。

～SDGsお笑いライブ～



▲吉本興業株式会社所属 黒ラブ教授氏

お笑いを交えたSDGsの講演を全国で開催している黒ラブ教授(吉本興業(株)所属、国立科学博物館認定サイエンスコミュニケーター)が登場し、SDGsについて、初めての方でも分かりやすく、お笑いを交えた親しみやすい形で解説があり、会場も盛り上がりしました。

▶会場の様子
 ▶海ごみを活用したサンドアート



▶パネル展示
 ▶各市町のSDGsのぼり旗

シンポジウムの模様はYoutubeで視聴できます。





年間を通してさまざまなイベントを催している「チップとデイル」の皆さん



子ども服バザーは人気企画。種類も豊富で地域内での循環を生んでいます

「チップとデイル」は桃生子育て支援センターを拠点に活動する子育てサークルで、地域のお母さんたちが集まって情報交換や交流を深めています。使わなくなった子ども服を提供するフリーマーケットも催しており、子育て世代を中心に人気となっています。

あり、地区の支援センターが開所したのをきっかけに独立したのが「チップとデイル」です。名前の由来は、子どもたちに人気のあるリスのキャラクターにあやかって付けられました。

同サークルの小野真子代表は「気軽に参加できる雰囲気、子育て世代の息抜き場になっています。学習講座などもあり、学びと交流も魅力の一つです」と話していました。

サークル仲問 ⑭

フリーマーケット人気 母親同士で情報交換

子育てサークル「チップとデイル」

みんなのた場

親子遠足など季節感のあるイベントを企画しています。他地区との交流も活発で、河南、桃生子育てサークル合同で「ここにフェスティバル」を開催しています。

支援センターを会場にした子ども服のバザーは春と秋の恒例です。子どもたちが大きくなって着られなくなった衣服を持ち寄り、「お下がりに」として必要とする人たちに提供されています。サイズを分けて整理されており、50円、100円と手ごろな価格で譲り受けられるのが人気の秘密です。

ささえあいセンター通信 ⑰

令和5年度地域福祉講演会 ～地域の支え合いを考える大会～ を開催しました

今年度は「気づく」をテーマに、217人が参加しました。会場の後方まで座席が埋まるほど多くの方が来場され、明るく賑やかな雰囲気となりました。

市内の小・中学生を対象に行われた福祉作品コンクールには、助け合いの心や、相手への思いやりの気持ちが込められたとても心温まる作品の応募が多数あり、ポスターの部、標語の部、合わせて20人の方を表彰しました。

活動発表では「あゆみ野カーシェア会」会長の草島真人さんから、「おちゃっこ会」や「お出かけツアー」などの外出支援を通じたコミュニティ創生に携わっていく中で、支え合いは挨拶からはじまるとのお話がありました。また、「河南地区ボランティア友の会」代表の菅原よしゑさんは、独居高齢者などの安否確認を兼ねた弁当の配達を通じて、住民の変化に気づき、仲間と一緒に助け合いながら活動していることなどの紹介がありました。

講演会では、一般社団法人コミュニティーネットハピネス代表理事の土屋幸己さんから「身近なことの変化に気づく地域づくり」をテーマとした講演があり、地域の支え合い活動を広げていくヒントや、日頃から「顔の見える」関係づくりを行うことの大切さのお話がありました。



市保健福祉総務課(内線2466) 石巻市社会福祉協議会 ☎96-5290



石巻市立桜坂高等学校

桜坂だより

第43号

こんにちは、桜坂高等学校です。今回は、桜坂高校の進路活動および進路決定状況について紹介します。



本校独自の取り組みとして、就職希望者向けに「桜坂合同企業説明会」、「企業見学バスツアー」などを行い、企業の担当者や本校の卒業生に話を聞く機会、仕事内容や就業の様子を知る機会を数多く設けています。



石巻西ロータリークラブの協力を得て、地元企業の経営者の方と模擬面接を行うなど、地域の方々にサポートいただいたことで、進路達成につなげることができました。進学希望者も外部講師を招いての模擬面接を実施することで、本番を意識した対策ができました。

令和5年12月末の進路達成状況は以下の通りとなっています。

- ★ 進学合格率= 92.2% (合格率/希望者数)
- ★ 就職内定率= 97.7% (内定率/希望者数)

全体達成率 94.4%

今年度、公務員試験に、国家公務員2人、宮城県職員3人、石巻市役所2人、自衛隊一般曹候補生1人が最終合格しました。(延べ人数) 今後の活躍を期待しています!

北上 年末年始彩る食材並べ

にっこり歳の市



年末年始の食材がそろそろ物産市「にっこり歳の市」が令和5年12月17日に北上総合支所で開かれました。特産の十三浜ワカメをはじめ、焼きハゼ、切り餅など正月に欠かせない食材がずらりと並び、地元産オーリーブオイルも人気を集めました。購入額に応じて抽選会に参加でき、特賞の追分温泉ペア宿泊券を願いつつ、抽選機を回して運試しをしていました。



Topic of town まちの話題



石巻 親愛なる地球のために

渡波出身・高砂さん講演

渡波出身で世界的に活躍する自然写真家、高砂淳二さん(いしのまき観光大使)が令和5年12月16日、マルホンまきあーとテラスで「地球と出会う旅」と題して講演しました。2月25日(日)まで開催中の写真展に関連した講演で、各国を旅する中で得た経験や出会った人々とのエピソードを作品と照らし合わせて紹介しました。気候変動にも言及し、来場者に「親愛なる地球のためにできることは何か」と問いかけました。講演後にサイン会もあり、熱心なファンが長い列を作っていました。



牡鹿 きつねの演奏楽しむ

東北電力クリスマスドリームin牡鹿

毎年恒例の「東北電力クリスマスドリームin牡鹿」が、令和5年11月30日に牡鹿観光物産交流施設「Cottu」で開催されました。このイベントは、原子力立地地域の文化活動の支援として実施されており、今年はいつ子のきつねたちによるサクソ四重奏が披露されました。招待された地区内の小中学生は、普段とは違う雰囲気の中、プロの演奏による外国民謡やクリスマスソングに手拍子などで参加していました。



河北 “氣”で心身整え健康に

河北ゆうゆう大学学習会

高齢者教室「河北ゆうゆう大学」の本年度第8回学習会が令和5年12月13日、河北総合センタービッグバンであり、約10人が「氣の健康教室」に参加しました。講師は市内などで心身統一合気道を指導する桑島乙彦さん。首の位置や立ち方など体のバランスを整えることで、免疫力や自然治癒力といった人間の本来持つ「自然体」の力が引き出され、元気になると言います。参加者は長く吸って長く吐く呼吸法や心身をリラックスさせる体操を実践し、日頃からできる健康法を学びました。



河南 ピリッと気持ち引き締めて

交通安全へ「からし巻作戦」

ピリッと辛い地元の特産品をドライバーに配布し、冬道の運転に気持ちを引き締めてもらおう「からし巻作戦」が令和5年12月7日、前谷地の国道108号沿いで行われました。石巻地区交通安全協会河南支部と石巻署などによる恒例の取り組みで、コロナ禍を経て4年ぶりの実施となりました。約30人が参加してドライバーに「安全運転をお願いします」と声をかけ、からし巻と啓発チラシなどを配布しました。



桃生 飲酒運転は絶対ダメ

スーパー前で啓発

飲酒の機会が増える年末年始を控えた令和5年12月22日、ウジエスーパー桃生店の店舗前で、「飲酒運転追放撲滅キャンペーン」が行われました。石巻市交通安全都市推進協議会桃生支部や河北署員ら約30人が店の入口に立ち、買い物客に「安全運転をお願いします」と声をかけながら、啓発チラシとティッシュを配布しました。



雄勝 年の瀬のにぎわい

道の駅で歳の市

「おがつ歳の市」が令和5年12月27日に道の駅碓の上の里おがつで開かれ、年越しの準備を整えようという多くの客でにぎわいました。震災前の商店街であった歳の市を引き継いでおり、地元の新鮮な水産物をはじめ、農産物や正月飾りが並びました。セリや切り餅の正月食材だけでなく、自宅で簡単に蒸しガキを作れる「カンカン焼き」の販売が行われたほか、餅つきの実演では、出来たての餅が振る舞われました。

